

千曲川洪水ハザードマップの配布について

水防法の改正に伴い、新たに千曲川流域の氾濫解析が実施され、その解析結果を使用した千曲川洪水ハザードマップを作成しました。

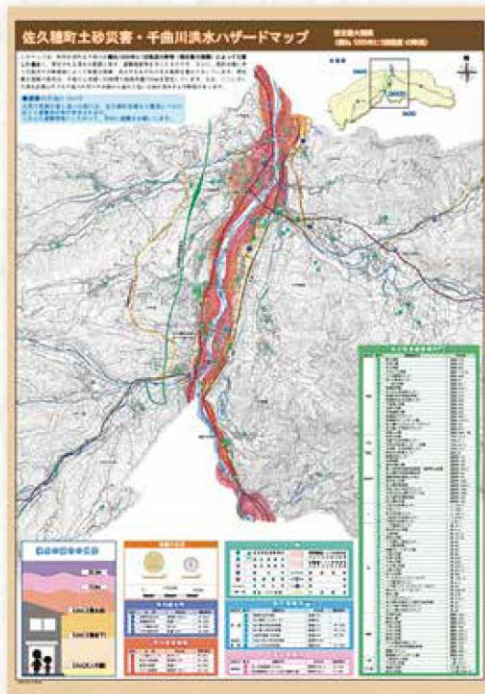
大雨が及ぼす影響をハザードマップからご確認いただき、大雨や洪水に対する危機意識を高めましょう。また、千曲川流域で想定される浸水区域と浸水の深さをご確認いただき、事前の避難などに役立てましょう。

千曲川洪水ハザードマップ作成の経緯

今回公表した洪水ハザードマップは、平成27年度の水防法改正により、浸水想定的前提となる大雨が「想定しうる最大規模の降雨（1年間の発生確率が1/1,000程度の降雨）」に変更されたことに伴い、県が新たに作成した「洪水浸水想定区域図」を用いています。

これまで、概ね100年に1回程度の降雨量であったものを、想定し得る最大規模の降雨、具体的には概ね1,000年に1回程度までの降雨量まで拡充することとなりました。

その結果、浸水想定的前提となる雨の量が大幅に増え、想定される浸水の範囲や深さが拡大しています。その他、目安となる情報として、新たに家屋倒壊等氾濫想定区域が設定されています。



洪水ハザードマップ

佐久穂町の千曲川洪水ハザードマップについて

今回、新たに作成した「概ね1,000年に1回程度の降雨（想定最大規模）」による氾濫箇所だけでなく、より高確率で起こりうる「概ね100年に1回程度の降雨（計画規模）」による氾濫箇所についても記載しています。

（概ね100年に1回程度の降雨：おもて面 概ね1,000年に1回程度の降雨：うら面）

家屋倒壊等氾濫想定区域について

想定最大規模降雨に伴う洪水により、千曲川が氾濫した場合の①氾濫流、②河岸侵食により、家屋倒壊等が想定される箇所を予測したものです。個々の家屋の構造・強度の違いから、この区域の境界は厳密ではなく、あくまでも目安であることに留意してください。

- ①氾濫流 堤防が決壊し、河川から流れ込む水の力により、一般的な木造住宅が、倒壊・流出するおそれのある区域です。
- ②河岸侵食 河川の激しい流れにより河岸が削られ土地が流出し、住宅が倒壊・流出するおそれのある区域です。

※①と②が重なっている箇所もあります